

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前からある理念と合わせて、地域を含む理念を考えた。	○	理念を共有し、それに沿った支援が行えるよう努力していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有し、努力を続けている。申し送り時に共有している。	○	実践に向けて、職員間で、日々向上するように取り組んでいきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	新しく考えた理念を、運営会の時に話していく予定。	○	家族に対しては、ホーム便りの中に理念を書き入れ、見て頂く時、説明し、理解して頂く。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の人々に日常的に挨拶をしている。運営会の時に声かけを行っている。まず最初に婦人会、民生委員の方に、気軽に遊びに(お茶に)来ていただけるよう声かけしている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会、婦人会、民生委員の方々と協力して、弁当を作り、お花見に出かけたりしている。また、老人会の会合にも参加させてもらっている。	○	老人会に声かけし、お茶会を開いたり、物作りの共同作業の声かけをして、交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会に参加し、認知症の理解を得られるように努めている。 敬老会、お花見会に参加して頂いている。	○	話し合いのひとつの内容として取り組んでいきたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解し、評価された内容については、改善できるものは努力して取り組んでいる。	○	毎年、新たに評価されたことを、一つでも多く改善していきたい。 自己評価した内容を職員間で共有する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の席で、サービスの実際や評価について、話をさせてもらっている。	○	会議のメンバーの質の向上とともに、職員の向上もできるように勉強の機会を作りたい。そこからもう一步のサービス向上に活かしたいと思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会への参加はしていない。	○	市町村の勉強会への参加を考えていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各研修会で勉強したり、パンフレット、メディアを通じて関心をもっている。利用者に、こういう制度があることを少し話したことがある。 今、利用されている方はいない。	○	職員のだれもが制度を理解できるよう勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない介護に努めている。	○	勉強会を開いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>じゅうぶんに説明を行っているつもりなので、理解、納得はして頂けていると思う。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見、不満、苦情等、じゅうぶんに反映できていない。</p>	<p>○</p> <p>利用者からの意見、不満、苦情等、じゅうぶんに受けられるように、利用者との関わりを深めていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、個々にホーム便りを作成して暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭出納帳を確認して頂く。</p>	<p>○</p> <p>どの職員が対応しても、じゅうぶんな報告ができるようにしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付の窓口を作っている。(意見箱の設置と苦情担当の提示) 運営推進会への参加の呼びかけ。</p>	<p>○</p> <p>家族がもっと意見を表せるように、信頼関係を深めていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員全体会を開いた。</p>	<p>○</p> <p>会を1回でも多く開けるようにしていきたい(定例会にした)。い。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整はその都度、必要に応じて対応している。</p>	<p>○</p> <p>柔軟に動ける職員の確保に努めたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットごとで職員の異動は最小限に抑えており、利用者には負担が掛からないよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会にも参加してもらい、感染予防や栄養面での知識をつけてもらうようにしている。	○	認知症のケアについてもっと院外での研修を取り入れ、さらなるケアの質を向上できる人材の育成に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会には参加しているが、地域のグループホーム間での交流は十分できているとは言えない。	○	地域のグループホームとの交流を活発にし定期的に勉強会等に積極的に参加してもらうようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に2回法人全体での食事会を開いており、法人内でフットサルのチームを作り、自由な参加を募っている。	○	風通しのよい職場環境を作り、問題点等を職員間で言いやすいように努力したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の実績を人事考課において評価しモチベーションを上げられるように努めている	○	定期的に職員を集め、勉強会やミーティングを行い、各自スキルアップできるようにしていきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前では、ホーム内の案内と説明をする程度で、信頼関係を築くまでには至っていない。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との関係と同じで、入居決定されてからの話し合いになる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ソーシャルワーカー、相談員、ケアマネージャー等からの情報をもとに、ホームにてどのように意向に沿った支援ができるかを考える。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の日常生活、生活歴、趣味、嗜好などより多くの情報を家族から頂き、少しずつ自然にホームに慣れて頂けるよう、配慮、工夫している。	○	事前に少しの時間をホームで過ごしていただけるように考えていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	古くからの慣習や遊び等を教えてもらったり、料理の味付けをみてもらったりと、共に支えあっている部分もある。	○	少しでも多く利用者と関わる時間を持てるようにすることで、共に支えあう関係を築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をお願いし、いっしょに楽しんで頂いたり、沈みがちな時は話を聞いたり、励ましにきて頂けるよう協力関係を作り、共に支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話等で声かけを行い、少しでも多く来て頂けるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達、近所の方々の面会の自由、外出、外泊等利用者の希望をできるだけ聞けるよう努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が仲良く支えあえるように努力しているが、個々の事情により難しい状況の方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院で退居されたり、在宅復帰された本人や家族に声をかけ、近況を伺ったり、なかにはボランティアとして退去された後も関わって下さっている家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声かけや話し合いを持ち、又、意志や希望を伝えることが苦手だったり、困難な方に対しては、職員や家族との関わりの中で見つけていくよう努めている。	○	職員間で情報を交換し、本人の希望が叶うように具体的に検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に話を聞かせてもらい、少しずつ理解していくよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日一日の過ごし方、心身状態、できること等を総合的に見守りながら把握している。	○	良くも悪くも、毎日同じ過ごし方をされている。もう少し前向きに過ごせるよう努力したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を第一に計画を作成している。毎月モニタリングを、3ヶ月に1回はカンファレンスを開催し、計画の達成度や今後のケアについて検討している。必要に応じて医師、理学療法士、栄養士の助言を頂く。	○	本人、家族同席のもとでカンファレンスを開けるようにしていきたい。 他職種間の連携をもっと密にして、プランに反映させたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に応じて見直しを行っている。 状態に変化があり、あまりにもプランとかけはなれた場合や、目標に近づけなかった時などは本人、家族の意見を聞くと共に話し合いをし、プランを変更している。 作り直すタイミングが遅れることもある。	○	プランに無理はないか、現状に合っているかを常に観察し、計画の途中であっても変更するタイミングをのがさないように、利用者本位に考えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を書き、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人を活かし、生活の継続、重度化した場合や緊急時の対応等の支援をしている。 また、デイサービスと共に行事を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、消防等と協力して支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	県、市、又は他の施設等のサービスを利用し、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡を取り、本人の必要性に応じた支援をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人である母体での受診、他の歯科、眼科、その他の医療機関への受診もサポートしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診をうけている。また、職員が相談できる医師も他にいる。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を訪問看護ステーションと結び、日常の健康管理や緊急時の勉強会も開いている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院、退院等について、病院との情報交換や相談に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、または終末期のあり方について、文章で確認してもらっている。また、状態が悪くなれば、家族の方への連絡や病院との連絡をとり、話をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けて、ホームでできること、できないことを見極め、医師や看護師と相談しながら支援するようにしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院時、自宅や他施設に移り住む際、じゅうぶんな情報提供をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに対する言葉かけや記録等こころがけているが、まだまだじゅうぶんでない。	○ 勉強会や申し送り、研修会等への参加を通じて、プライバシーを大切にすよう、日々声かけをしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや希望を聞くようにしている。できること、できないことの折り合いをつけながら、自分で決定したり、納得しながら生活している。	○ 全体でできているとは言えないので、少しでも多くの利用者の思いが表出できるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎり一人ひとりのペースを大切にしていきたいが、職員側のペースで行うことが多い。	○ 一人ひとりの体調に配慮しながら、本人の声に耳を傾けた支援ができるようにこころがけたい。(買い物、ドライブ、カラオケ等)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容については、本人に聞きながら、ホーム内、または地域や馴染みの理容室、美容室に出かけている。服装についても、自分で判断できる方は買い物支援、家の方の支援で楽しんでいる。	○ 整容について、個々に気をつけて見てあげられるよう支援したい。(今までより多く)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事の時、利用者の好みの食事を作ったり、外食もしている。	○ ほんの一部であるが、食事の用意や片付けを手伝ってもらっており、少しでも多く関わってもらえる環境を作りたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調に合わせて(各々の疾病等もあり)支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間のトイレの声かけや介助により、オムツ使用はない。失敗した時の後始末や、その状況により、シャワー浴をしたりして清潔を保つよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ個々に合わせた入浴支援をしているが、利用者の皮膚疾患や汚染等の関係もあり、少し無理に行う場合もある。	○	もっと幅広く、入りたい時に入れるよう支援していきたい。寝る前に入りたい人がいるので、対応できるように考えたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、よく休まれている。夜間のトイレ利用の見守り、排泄の声かけやポータブル介助、居室の照明や温度調節にも気をつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとに野山や寺社へドライブに行ったり、郊外の大型店へ買い物や気晴らしにと外出の機会を増やしている。ホーム内では、裁縫、カラオケ、習字、おはじきやかるた等の楽しみごと、ゴミ箱作り、洗濯物たたみ、台拭き、掃除、花の水やり等役割を持ち、それぞれに得意分野を活かしている。	○	もっと支援の幅を広げ、たくさんの楽しみを持ってもらいたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は本人が持ち、買い物の支払い等は自分でしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は周辺の散歩、ドライブ、買い物の支援をしている。	○	できるだけ多く出かけられるよう努力していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	公民館や体育館での行事にボランティアの方といっしょに出かけた。	○	今後も機会をみつけて参加したい。お祭りにも行ってみたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいと言われたり、かかってきた時には対応している。 年賀状を出せるよう支援している。(自筆、絵手紙)	○	年賀状だけでなく、折にふれてはがきや手紙のやりとりの回数を増やしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂いている。居室でゆっくり話をされている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて話し合いをし、記録をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺の交通量も多く、施錠しているが、職員が見守りできる時は鍵をかけないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は居室への訪室には必ずノックをして入室、声掛けを行う、また、不在時には所在を確認する。 夜間はそっと見守りを行う。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりに合った物品を確認している。(状態悪くなり、自己にて管理できないようになればその時に対応する)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	話し合いを行い考え支援している(床頭台のゴマをなくしたり、ベッドの位置を変えてみたり等)。	○	常に利用者の所在の確認を行う事に気を付けたい、また、タバコを吸われる方には特に注意をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行えていないが、勉強会や消防の講習会に参加している。	○	誰もが行えるように知識や訓練を身に付けられる努力をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の時の訓練は行っている。 災害時における一時避難場所を地域の方にお願ひし確保している。	○	運営推進会を利用して働きかけをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時には起こるかもしれないリスクについて説明している。 また、その都度説明しなければいけない事については説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調について医療連携によって訪問看護の方の指示や毎日のバイタルチェック、または、観察によって気付き、受診または処置を行っている。 家族への連絡も行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について、一人の確認ではなく多くの目で見て確認するようにしている。	○	薬について話し合いをしているが、全職員が何の薬を飲み、用法等理解できるようもっと努力し、症状の変化にも早期対応できるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行いまた、本人の訴えにより、飲み物・薬等の調整をしている。 体を動かす事の支援もしている。	○	訴えがない方については食事量のチェック、下腹の張り具合等、周辺状況を観察しながら取り組む。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けまたは、口腔清拭の介助を行っている。	○	より以上に口腔清拭の支援または、口腔内の状態について、観察、見守りを続けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックまたは、体重変化のチェックを行い、医師や看護師より指示を受け支援している。また、工夫したり声掛けをして支援している。難しく上手くいかないことが多いが色々と工夫しながら、摂取して頂けるよう支援している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	今年ノロウイルスの感染があったので、今回の経験を活かして早期発見・対応に努めたい。	○ 一人が症状が出た場合より対応し感染の拡大を防げるよう努める。 ペーパータオルの使用、個人タオルの使用、インフルエンザの予防接種。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員一人ひとりが気を付け器具、台所、食材の取扱いを注意している。まな板、ふきん、食器等の漂白や冷蔵庫内の整理、残り物の処分、日付のチェックをしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの花や階段の目印(転倒防止)等の工夫をしている。 玄関先にテーブルを置き日光浴をしながら、お茶を楽しめる工夫をしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の花、廊下やホールの壁等へ季節感のある物を掲示したり、食事の時の匂いや音も楽しめる。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ、玄関の椅子、玄関先の机等利用し思い思いに過ごしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとり持ち込まれている物が違います。家族からのプレゼント、昔からの写真や家具、新しくここでの生活で使い始めた物等、過ごしやすくなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、温度調整は利用者の方に合わせて行っている。	○	温度計・湿度計の設置を考えている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置(ホール、浴室、廊下等)。 玄関や裏口のスロープ。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋の目印、トイレ、浴室等の絵標示等をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の外に机を置き、日光浴をしたり、また、夏には花火等をして楽しんでいる。 花を植えているので見たりして楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ADLの低下防止の為に体操
 - ・できるだけ出掛けられるように心掛けている
 - ・防災頭巾の製作
 - ・個人のエクササイズもしている
- これらの事を主に力を入れ行っています。